

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ミツバ	▲	2走前の白山大賞典は不可解な敗戦だったが、前走チャンピオンズカップでは伸びない外を回って7着まで追い上げており、地方の低レベルなダートグレードならまだまだ走れると判断していい。		
2	2	ハッピープリント		全盛期なら通用したかもしれないが、長期休養明け後の3戦のパフォーマンスから以前の能力がないのは明らか。このメンバーでは掲示板に入るのが精いっぱいだろう。		
3	3	ナムラアラシ		レースセンスが致命的になく、コーナー8回まわるコースでは力を発揮できずに終わるだろう。仮に力を出し切れてもこのメンバーでは掲示板が精いっぱいなのは。		
4	4	トーセンノワール		ここに来て力をつけているのは間違いないが、B1勝ち直後でいきなりの地方ダートグレード挑戦。まずは経験を積むのが先決か。		
5	5	センチュリオン	△1	勝ち馬グリムとの逆転は難しくても、ミツバ、カツゲキキトキトに先着したのは事実で、当時のパフォーマンスを發揮できれば、ここも馬券圏内に入るチャンス。近2走は結果が出なかったものの、単純にG1で相手が強かっただけ。地方の低レベルなダートグレードなら巻き返してくるだろう。		
6	6	カツゲキキトキト	△2	16年3着、17年3着と2年連続で好走しており、地の利があるのは確かだが、今年の白山大賞典の走りを見る限り、このメンバーではやや分が悪い。大畑騎手はおそらく逃げるグリムを追いかけていくはずだが、そのグリムの方が圧倒的に能力上位なので、最後に失速する可能性はあるだろう。		
7	7	グリム	◎	名古屋グランプリと似た小回り&長距離適性が問われる白山大賞典が圧巻の勝ちっぷり。直線ではほぼ追うことなく、2着センチュリオンに5馬身差の圧勝。今回は当時の1~3着馬がそろい、再戦ムードの色合いが強いのであれば、本馬中心のレースになるのは間違いないだろう。		
8	8	チュウワウィザード	○	エンジンのかかりが遅く、ドカドカと走るタイプなので、コーナー8回をまわるコースで力を發揮できるか不安はあるものの、9頭立ての少頭数、被されない外枠を引けた以上、川田騎手なら前を射程圏に入れて早め早めのスタートをしてくるはず。		
	9	ブランニュー		地元の特典戦でも勝ち上がれない現状。このメンバーでは最下位濃厚だろう。		